

第2回 ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会 議事要旨(案)

【開催日時】

平成20年2月29日(金) 14:00～16:00

【開催場所】

灰塚コミュニティセンター

【出席者】

敬称略

委員長	中越 信和	広島大学国際環境協力プロジェクト研究センター長	教授
委員	多留 正弘	安田自治振興会	会長
委員(代理)	今井 秀明(伊藤 忠則)	のぞみが丘運営協議会	会長(副会長)
委員	和田 芳治	木屋地区自治振興区	区長
委員	山根 京司	稲草西自治振興区	区長
委員	金沢 成三	比婆科学教育振興会	会長
委員	岩水 正志	灰塚ダム知和ウェットランド	フレントリ館 館長
委員	熊原 保	社会福祉法人総領福祉会	理事長
委員	湧田 法恵	三次市 三良坂支所	支所長
委員	久保田隆義	三次市 吉舎支所	支所長
委員(代理)	永田 修治(宗兼角夫)	庄原市 総領支所	支所長(地域振興課長)
委員	島田 淳次	国土交通省 中国地方整備局 三次河川国道事務所	支所長

分科会代表

第3分科会 宮崎 文隆 地域活性化分科会

第6分科会 福場 健二 ウェットランドと環境教育分科会

オブザーバー

三谷 潔(代理:中島聡子) 広島県備北地域事務所 総務部 企画調整課長(主任技師)

【議事次第】

- (1)開会
- (2)開会あいさつ
- (3)第1回委員会議事要旨の確認
- (4)第1回及び第2回分科会についての概要報告
- (5)各分科会で設定した目標と取り組みについて
- (6)分科会で実施したリーディングプロジェクトについて
- (7)ハイツカ湖地域ビジョン基本方針（案）について
- (8)その他
- (9)閉会あいさつ

【説明資料】

- 資料-1 第2回ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会 議事次第
- 資料-2 第1回ハイツカ湖地域ビジョン委員会 議事要旨
- 資料-3 第1回ハイツカ湖地域ビジョン分科会 開催概要
- 資料-4 第1回ハイツカ湖地域ビジョン分科会とりまとめ
- 資料-5 第2回ハイツカ湖地域ビジョン分科会 開催概要
- 資料-6 第2回ハイツカ湖地域ビジョン分科会とりまとめ
- 資料-7 リーディングプロジェクトの実施
- 資料-8 ハイツカ湖地域ビジョン基本方針（案）
- 資料-8 別紙：基本方針のとりまとめ（案）
- 資料-8 参考資料：ハイツカ湖地域ビジョン基本方針（案）についてのご意見
- 資料-9 ハイツカ湖地域ビジョン WEB の設置
- 資料-10 今後のスケジュール

【議事要旨】

1. 第1回委員会議事要旨の確認
 - ・第1回委員会議事要旨については、内容及び公表について了承された。
2. 第1回及び第2回分科会についての概要報告
 - ・分科会の開催状況について、事務局より概要が説明された。
3. 各分科会で設定した目標と取り組みについて
 - ・各分科会で設定した目標と取り組みについて、委員や分科会代表より発表いただいた。
4. 分科会で実施したリーディングプロジェクトについて
 - ・リーディングプロジェクトとして、冬鳥観察会・手前味噌づくりの実施状況が報告された。
 - ・カタクリガイド養成講座及びカタクリ祭りが紹介された。
5. ハイヅカ湖地域ビジョン基本方針（案）について
 - ・欠席委員の意見として、下記が紹介された。
 - 『自然と人のつながりが大切である。』
 - 『水を活かした取り組みが必要ではないか』

以下、基本方針をまとめるにあたっての自由意見。

- ・訪れるところではなく住めるところになることが、生き生きと暮らすことができる前提である。
- ・その為には兼業農家の生活を安定化させるとともに、居住整備をする必要がある。
基本方針としては「里山」がもっと前面に出てきて良いのではないか。
- ・地域活性化として、観光も忘れてはいけない部分である。
- ・どのように里山を残すかということは、今いる子供たちがこの地域に残ってくれるような取り組みが必要である。学校を含み、地域で里山の環境教育を行い地域に残ろうという気持ちを持たせることが大切である
- ・川や里山も使いながらではあるが、この地域はハイヅカ「湖域」であることを活かさなければいけないと思う。
- ・地域に住んでもらうためには、福祉の家というハード面だけではなく、働ける場所づくりをしていかなければならない。
- ・子供の頃からの経験として「楽しい大人」をみて、地域に残ろうという気になるのではないかと思う。
- ・三良坂町づくりビジョンにおいてもハイヅカ湖を活用した取り組みがある。ハイヅカ湖は魅力のある資源であると考える。

- ・「美しい」という言葉もキーワードになる。ここに住み人は「誇り」を持って生きている、外から来た人は来て楽しかったという事が大切と思う。
- ・ダム下流地域を洪水から守るなど、様々な形で貢献している素晴らしい地域であることを知ってもらう必要がある。
- ・ダムを中心に据えた市域を越えたネットワーク、江の川の上流水源のひとつである田総川というのもキーワードになる。里山を食い物とし楽しんできた地域であり、子供たちが地域を知り、ここに帰ってくれば長期的なビジョンにつながると思う。
- ・少子高齢化が進み、一度外に出た子供はなかなかこの地域には帰ってこないという現実も認識しておくべきである。
- ・空き家が増えてきているので、これらを利用することが大切だと思う。
- ・ここを出て都会で生活している人も、里帰りすれば喜んでいるので、必ずしも都会暮らしに満足しているというわけではないと思う。ただ、現状としては一度出た人は帰ってこないのに、現在住んでいる人が楽しみ満足した生活を送ることが大切なのではないかと思う。
- ・ウエルカム精神が大切だと思う。
- ・この地域だけで盛り上がるのではなく、三次、庄原、世羅などの他の地域と手をつなぐことが重要であると考えます。
- ・三次市、庄原市という異なる行政区が一体となって取り組める機会となれば良いと考える。

6．決定事項

- ・基本方針(案)については、本委員会での意見を事務局側でまとめた上で、その結果を反映した基本方針(案)修正版を委員に照会する。その後、パブリックコメントを頂くため、ホームページ上に掲載する。
- ・次回の委員会は6月上旬頃を予定する。
- ・平成21年3月には、基本方針に基づいたアクションプランを完成させるスケジュールを予定する。

以上